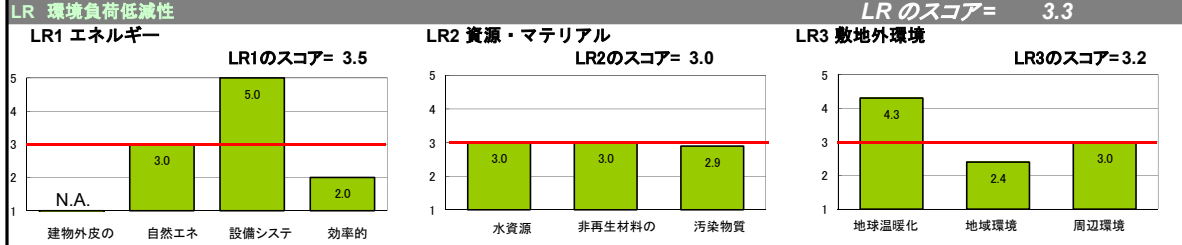
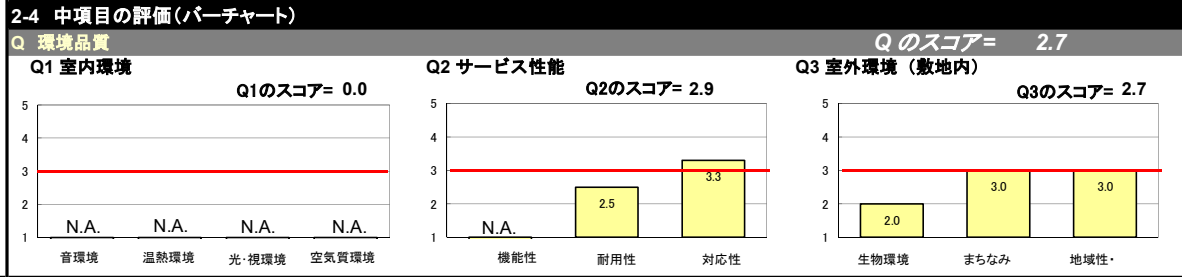
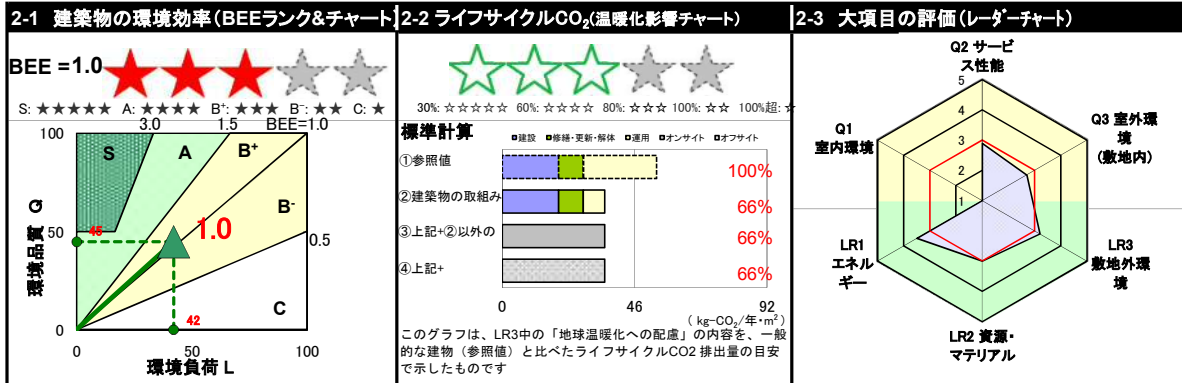


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社マルニ運輸 248事業所	階数	地上2階
建設地	愛知県瀬戸市広之田町20番13 他	構造	S造
用途地域	都市計画区域内(市街化調整区域)	平均居住人員	10 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,500 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年9月 予定	評価の実施日	2017年5月8日
敷地面積	6,563 m ²	作成者	鈴木武夫
建築面積	2,131 m ²	確認日	2017年5月12日
延床面積	2,216 m ²	確認者	大塚 貢



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">13.8 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						建物全体・共用部	建物全体・共用部	居住・宿泊部分	居住・宿泊部分	全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体
Q 建築物の環境品質														2.7
Q1 室内環境														-
1 音環境														-
1.1 室内騒音レベル														-
1.2 遮音														-
1 開口部遮音性能														-
2 界壁遮音性能														-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														-
1.3 吸音														-
2 温熱環境														-
2.1 室温制御														-
1 室温														-
2 外皮性能														-
3 ソーン別制御性														-
2.2 湿度制御														-
2.3 空調方式														-
3 光・視環境														-
3.1 昼光利用														-
1 昼光率														-
2 方位別開口														-
3 昼光利用設備														-
3.2 グレア対策														-
1 昼光制御														-
3.3 照度														-
3.4 照明制御														-
4 空気質環境														-
4.1 発生源対策														-
1 化学汚染物質														-
4.2 換気														-
1 換気量														-
2 自然換気性能														-
3 取り入れ外気への配慮														-
4.3 運用管理														-
1 CO ₂ の監視														-
2 喫煙の制御														-
Q2 サービス性能														2.9
1 機能性														-
1.1 機能性・使いやすさ														-
1 広さ・収納性														-
2 高度情報通信設備対応														-
3 バリアフリー計画														-
1.2 心理性・快適性														-
1 広さ感・景観 (天井高)														特に考慮していない
2 リフレッシュスペース														-
3 内装計画														-
1.3 維持管理														-
1 維持管理に配慮した設計														-
2 維持管理用機能の確保														-
2 耐用性・信頼性														2.5
2.1 耐震・免震・制震・制振														0.52
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0
2 免震・制震・制振性能														0.48
2.2 部品・部材の耐用年数														3.0
1 躯体材料の耐用年数														0.20
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														2.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														0.33
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														2.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														0.32
6 主要設備機器の更新必要間隔														0.19
2.4 信頼性														0.20
1 空調・換気設備														2.0
2 給排水・衛生設備														3.0
3 電気設備														0.20
4 機械・配管支持方法														3.0
5 通信・情報設備														1.0
														0.20

3 対応性・更新性				3.3	0.48			-	3.3
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31			-	
1 階高のゆとり			階高 6.0m	5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率 0.08	5.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				2.2	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②		-	-			-	
2 給排水管の更新性				-	-			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.20			-	
4 通信配線の更新性				-	-			-	
5 設備機器の更新性				1.0	0.40			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.40			-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			-	2.7
1 生物環境の保全と創出		独自③		2.0	0.30			-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30			-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.3
LR1 エネルギー					0.40				3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制				2.0	-			-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28			-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEIm=0.29	5.0	0.43			-	5.0
4 効率的運用				2.0	0.29			-	2.0
集合住宅以外の評価				2.0	1.00			-	-
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	-
4.2 運用管理体制				1.0	0.50			-	-
集合住宅の評価				-	-			-	-
4.1 モニタリング				-	-			-	-
4.2 運用管理体制				-	-			-	-
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.0
1 水資源保護				3.0	0.15			-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40			-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	1.00			-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				-	-			-	-
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.63			-	3.0
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07			-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25			-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21			-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	1.0	0.21			-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-			-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	解体時におけるリサイクルを促進する対策をしている	5.0	0.25			-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				2.9	0.22			-	2.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有害物質を含まない建材を仕様している	5.0	0.32			-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				2.0	0.68			-	-
1 消火剤				2.0	0.50			-	-
2 発泡剤(断熱材等)				-	-			-	-
3 冷媒				2.0	0.50			-	-
LR3 敷地外環境					0.30				3.2
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率が一般的な建物に対して66%	4.3	0.33			-	4.3
2 地域環境への配慮				2.4	0.33			-	2.4
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	-
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50			-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25			-	-
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	-
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	-
3 交通負荷抑制		独自	駐車場の確保に関する取組をしている	4.0	0.25			-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			-	-
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33			-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	-
1 騒音		独自		3.0	0.33			-	-
2 振動		独自		3.0	0.33			-	-
3 悪臭				3.0	0.33			-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	-
1 風害の抑制				-	-			-	-
2 砂塵の抑制				3.0	1.00			-	-
3 日照障害の抑制				3.0	0.20			-	-
3.3 光害の抑制				3.0	0.70			-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.30			-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	-

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

株式会社マルニ運輸 248事業所 新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.3	0.10	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	2.5	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:13.8%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	流通業務施設として周辺環境に配慮した配置計画、緑地計画とした。
Q1 室内環境	特に考慮していない。
Q2 サービス性能	中央式空調換気設備をもたない。 空間のゆとりに配慮している。 設備機器、配管の更新性に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	緑の量の確保に配慮している。外構緑化指数13.8%である。 周辺のまちなみや景観に対して配慮がなされている。 地域性・アメニティへの配慮に関して取組が行われている。 敷地内の歩行者空間等へ風を導き、暑熱環境を緩和している。
LR1 エネルギー	照明設備の高効率化を図っている。一次エネルギー消費量はBEIm=0.29である。
LR2 資源・マテリアル	主要構造部の材料仕様量の削減に配慮している。
LR3 敷地外環境	地球温暖化への配慮がなされている。 ライフサイクルCO2排出率が66%である。 大気汚染防止の配慮がなされている。
その他	特に考慮していない。